

第2回大分市長寿応援バス事業のあり方検討会 議事録（要旨）

1. 開催日時

令和5年10月26日（木） 14時00分～15時30分

2. 開催場所

大分市役所議会棟4階 全員協議会室

3. 出席者

12名、事務局

4. 傍聴者

なし

5. 次第

1. 開会

2. 議事

（議題1）長寿応援バス事業の課題について

（議題2）交通系ICカードの概要について

（議題3）交通系ICカードの普及・利用状況について

（議題4）中核市における高齢者移動支援の取組とICカード化の状況について

（議題5）これまでに検討したICカード手法と課題について

3. その他

4. 閉会

6. 議事（意見要旨）

（議題1）長寿応援バス事業の課題について

利用料金（運賃）の支払いが現金であること、利用実績の正確な把握ができないことなど、本事業の課題について事務局より説明

（委員）

令和元年度に対象年齢の引き上げを行った理由は。

（事務局）

高齢化の進展に伴う対象者、利用者が増加し、委託料が大幅に増加していたため、その改善策として、利用料金の引き上げにより利用者の負担を求めるとともに、対象年齢の引き上げを行った。

(議題2)交通系ICカードの概要について

交通系ICカードの概要、使い方について事務局より説明

(委員)

パスモやスゴカ等、ニモカ以外のICカードも使えるようになるのか。

(事務局)

現在、大分市の路線バスは、ニモカ以外の交通系ICカードでも乗車できるようになっている。今後、長寿応援バスをICカード化するとき、お手持ちのカードを使えるようにするかどうかは、どういった手法を導入するかによって変わってくる。

(委員)

バスに乗ってICカードをタッチする際に、残額の画面が見にくい。前もって残額を把握するのに、もう少し大きく見やすくできないか。高齢者が使うならば、なおさらもう少し分かりやすい方がよい。

(事務局)

ご指摘のとおり、車載器に残額が一瞬しか表示されないイメージがある。車載器の改善は、事業者にお願いすることになる。

(議題3)交通系ICカードの普及・利用状況について

ICカードの普及・利用状況、運賃支払いにおける現金と交通系ICカードの内訳について事務局より説明

(委員)

ICカードの利用割合が増えることのメリットとして、車内での決済がスムーズになり、バスの乗降車時間の短縮につながっている。

また、バス路線などの利用実績を見て、全体の利用傾向を把握することがあるが、長寿応援バスに関しては推計値しか分からない。ICカードを活用することで高齢者についての利用実績データを取ることができるようになればありがたい。

(委員)

同じく、スムーズな乗降と利用データの取得のメリットが大きい。ダイヤの見直しを行う際にも役に立つ。

(委員)

ICカードを紛失した場合はどうなるのか。

(委員)

クレジットニモカ、スターニモカは記名式になっている。クレジットニモカは

通常のクレジットカードの紛失対応と同じ。スターニモカの場合、再発行手数料がかかるが、残額も新しいカードに移行できる。

記名式でないニモカについてはそのような対応はできないため、当社としては記名式を勧めている。

(議題4)中核市における高齢者移動支援の取組とICカード化の状況について

他都市の高齢者移動支援の取組内容などについて事務局より説明

(委員)

ICカード利用している19自治体は、現金との併用はしていないということでしょうか。

(事務局)

現金との併用はしておらず、ICカードのみしか認められていない。

(委員)

データを取るためであればICカードの普及がよいが、現金チャージをしてもしなくてもよいという使い方ができれば、バスの乗降の時に「これにチャージしておくとう便利だな」ということでチャージの利用が増えてくると思う。少し融通性を持たせて、ICカードで乗れば安く乗れるし、チャージもできるというように選択肢を増やしていけば利用者が増えるのではないかと。要望です。

(委員)

ICカードはタクシーでの利用は可能か。ふれあい交通では可能か。

(事務局)

少なくともニモカに加盟しているタクシー会社であれば交通系ICカードでの支払いは可能であるが、ほかに何社が対応できているのかは把握していない。ふれあい交通の支払いに関しては、現金のみとなっている。

(議題5)これまでに検討したICカード手法と課題について

本市がこれまで検討したICカードの手法(宮崎市の定期券方式・函館市のポイントバック方式)や導入するための課題について事務局より説明

(委員)

輸送量に影響する要因は運賃やサービスの質ということになるが、ICカードを導入することでサービスの質、利便性の向上につながる。質が上がれば輸送量が増えるはずだが、交通の分野で難しいのは、マイカーの存在が強力なライバルとなっていることだ。ICカード利用者は増加しているが急激には増えていないことからすると、現金を利用したい人が多いということなのか。どのように

考えたら良いのか。

(事務局)

課題として利用回数が減少している状況がある中で、ＩＣカード化することによって利用回数の増加につなげたい。そのためには、多くの方にＩＣカードを持ってもらうこと、使い方のお知らせをすることが必要であるし、移行するまでに一定期間おいて、しっかり周知をした上で移行していただくことも必要。

他都市でも、ＩＣカード導入の際に「現金の方が良い」という意見はあったと聞いており、そのような意見はあると思われる。一方でバス事業者も導入を望んでおり、長寿応援バス事業の課題となっている利用実績の正確な把握も進めていかなければならない。利用増加と利用実績の把握を両立できるような見直しにしたいと考えている。

(委員)

ポイントバック方式はあまり使い勝手が良いようには思えない。ポイントバックを受けるためには、利用者がどこかに行かなければならないということか。大分市ではポイント交換機はどこにあるのか。ポイントに有効期限があるということも期限が過ぎれば残ったポイントを失ってしまうという不安がある。

(事務局)

ご指摘の通りの内容が課題となり、導入できなかった。そもそもポイントバック方式では現在の長寿応援バスと大きく制度が変わるため、適当でないと判断した経過がある。なお、ポイント交換機は、大分バスの総合窓口と府内町のめじろんニモカ総合カウンターの２箇所しかない。

(委員)

ＩＣカード化することで利用が増えるかは疑問があると思われるかもしれないが、利用者数の実績を把握することで予算が把握でき、将来的に柔軟な料金設定ができるなど、いろんな仕組みを考えることができることがメリットであると認識している。

(委員)

今回のＩＣカード化の導入の目的として、市としては大きいのは実績把握ができ、それによって市からバス事業者への支払額が確定できること、また柔軟な対応ができるというメリットがある。バス事業者にとっては、現金のやり取りを減らし、実態把握ができるというメリットがある。立場によって目的の違いがあるのだろうと思う。

(委員)

夏休みに大分バスで子ども向けの乗り放題をしていたかと思うが、同じ時期

に孫と一緒に乗り放題を実施すれば利用が増えるのではないかと。子どもも大人も一緒に乗り放題にできるようなものがあればよい。

(委員)

今年、小学生中学生向けに8月の1か月間、乗り放題の定期券を発行した。目的としては、将来に向けてバスを利用するきっかけづくりとしてもらえるとうれしいということで実施した。意見を参考にしながら今後の施策を検討したい。

長寿応援バス事業のICカード化に合わせてどのようなことができるかについては、ICカード化の手法にもよるが、バス事業者が行う取組に合わせて告知をして、ICカードへの切り替えを促す等の方法も考えられる。長寿応援バスがICカード化された場合は、市と協力しながらICカードへの移行の促進に取り組んでいきたい。

(委員)

宮崎市での例の場合、大分バス・大分交通共通のICカードが作れないのは技術面の問題なのか。

(委員)

料金の支払いでは同じICカードを利用することは可能であるが、定期券は大分バス・大分交通が発行したものを、該当の会社でしか使えないようになっている。

(委員)

ICカードの利用はかなり地域特性があると理解している。大都市では普及が進んでおり、現金利用の不自由さの方が明らかになっているので、ICカード化は進めやすいと思う。大分では車利用者が多く、バスに乗るのは年に数回となると、現金の取扱いにそれほど抵抗がなく、ICカードの利用にメリットは感じにくいということがある。ICカードへの一本化は、こうした大分の状況を踏まえると時間がかかるのではないかと考えている。

利用実績の把握や現金のやり取りをなくすなどのメリットがあることは理解できるが、それを達成するために急速に進めるとなると軋轢が生まれてくるのではないかと感じている。その点は慎重に考えていく必要があると考えている。

(事務局)

手持ちのカードを増やしたくないという意見とそもそもICカードの使用に抵抗があるという意見は双方理解できる。次回以降、具体的に他都市の状況を紹介して意見をいただきたい。

(委員)

他の委員からも発言があったように、車社会ではバスの利用が少なくなる。今

回の動きが、果たして功を奏するのか、社会の中で貢献するのかと感じる。都会では車の移動は少なく、電車やバスの利用が多くなる。一方、地方では車社会の中で暮らしている。

ICカード化が功を奏するためには、土壌を分析し、土壌を耕さないといけないのではないかと感じる。ICカードを使ってバスに乗って楽しい思いをする、いろんな情報を収集できる、文化的な生活もできる、というようなことにつなげていけると思う。

今後、高齢化が進み、孤独になる高齢者も増える。外に出て行きたくても出ていけない孤独感を抱える方がいる。そういう状況下で、バスを使って道が開ける、高齢者が外出できる、子どもたちも利用してあちこち行って、いろんなものを吸収したい、教育にもなる。バス会社も含めて、世の中をもう少し広くバスを利用できるようにしていただきたいと感じた。

(事務局)

長寿応援バスだけで問題を解決することは難しいと思うが、長寿応援バス事業がその一端を担うものとして、バス利用の促進や高齢者の社会参加・外出支援のきっかけになるような取り組みにできればと考えている。

7. その他（今後のスケジュールについて）

次回日程確認：令和6年1月24日（水）14時00分～（予定）

以上